

新規事業採択時評価結果（令和4年度新規事業化箇所）

担当課：道路局 環境安全・防災課
担当課長名：荒瀬 美和

事業の概要

事業名	地域高規格道路 松本糸魚川連絡道路 主要地方道大町明科線 安曇野道路	事業区分	地方道	事業主体	長野県
起終点	自：長野県安曇野市穂高北穂高 至：長野県安曇野市豊科光	延長	4.0 km		
事業概要	<p>松本糸魚川連絡道路は、長野県松本市から新潟県糸魚川市を結び、松本～大町～糸魚川の生活圏を連絡し、広域的な交流・連携が期待される全長約100 kmの地域高規格道路である。</p> <p>主要地方道大町明科線 安曇野道路は、松本糸魚川連絡道路を構成する延長4.0 kmの道路である。</p>				
事業の目的、必要性	<p>交通の転換による渋滞緩和、事故減少 高速道路へのアクセス性向上による観光・産業の振興、医療環境の充実 災害時の広域的な連携強化、代替路の確保による迅速かつ円滑な救援・復興活動</p>				
全体事業費	約250億円	計画交通量	12,100台/日		
事業概要図					

関係する地方公共団体等の意見
 地元自治体（安曇野市）から早期整備の要望を受けている。
 長野県総合5か年計画（H30.3策定）の調査・整備箇所に位置づけられている。

学識経験者等の第三者委員会の意見
 長野県の公共事業評価（令和3年12月17日）により、新規事業化が妥当と判断。

事業採択の前提条件
 便益が費用を上回っている。
 沿線自治体より早期整備の要望を受けており、また都市計画も完了（令和3年9月16日）するなど、円滑な事業執行の環境が整っている。

事業評価結果

費用対便益	B/C	1.4	総費用：170億円 （事業費：165億円 維持管理費：4.4億円）	総便益：245億円 （走行時間短縮便益：195億円 走行費用減少便益：42億円 交通事故減少便益：8.8億円）	基準年：令和3年	
	感度分析の結果	交通量変動	B/C=1.3 (交通量 -10%)	B/C=1.6 (交通量 +10%)		
		事業費変動	B/C=1.3 (事業費 +10%)	B/C=1.6 (事業費 -10%)		
	事業期間変動	B/C=1.3 (事業期間 +20%)	B/C=1.5 (事業期間 -20%)			
事業の影響	評価項目	評価	根拠			
	自動車や歩行者への影響	渋滞対策	◎	慢性的な渋滞が発生している安曇野IC周辺道路において交通の転換により、通過交通が排除され、渋滞の緩和が図られる。		
		事故対策	◎	慢性的な渋滞が発生している安曇野IC周辺道路において交通の転換により、通過交通が排除され、事故の減少が図られる。		
		歩行空間	—	注目すべき影響はない。		
	社会全体への影響	住民生活	◎	中央自動車道長野線へのアクセス性が向上する。三次救急医療機関（信州大学医学部附属病院等）への搬送時間が短縮されることにより医療環境の充実と連携強化が図られる。（市立大町総合病院～信州大学医学部附属病院間の所要時間 約8分短縮）		
		地域経済	◎	北陸方面からのアクセス性向上により観光客が増加し、周遊性の向上や渋滞緩和により魅力度向上に寄与する。北陸地方との連携・高速ネットワークの構築により新たな産業が創出され、地域産業の振興と雇用が創出される。		
		災害	◎	災害時に広域的な連携が強化され、代替路の確保による迅速かつ円滑な救援・復興活動が可能となる。		
環境		—	注目すべき影響はない。			
	地域社会	○	北陸地方との交流・連携の促進に寄与する。			
事業実施環境	○	都市計画決定完了（令和3年9月16日） 長野県総合5か年計画（H30.3策定）の調査・整備箇所に位置づけられている。 地元自治体（安曇野市）より早期整備の要望を受けている。				

採択の理由

事業主体である長野県が実施した評価結果に基づけば、費用便益比が1.4と便益が費用を上回っており、事業採択の前提条件が確認できる。
 松本～大町～糸魚川の生活圏を結び、広域的な交流・連携を図るうえで重要な役割を担う道路であり、高速道路へのアクセス性を向上し、安曇野IC周辺の渋滞緩和・交通事故減少、産業・観光の振興など、当該事業の整備の必要性、効果は高いものと判断される。
 以上により、本事業は令和4年度新規事業箇所として、妥当であると考えられる。

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。